

### 1 自己評価及び外部評価結果

#### 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1091100014		
法人名	有限会社竹の里		
事業所名	グループホーム竹の里		
所在地	群馬県安中市松井田町五料2098-1		
自己評価作成日	令和5年10月20日	評価結果市町村受理日	

#### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

新規の入居者が増え、散歩や塗り絵、パズル等個人が出来る事に力を入れているが、看取りの方も居るためバランスよく対応出来るようにしている

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

#### 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	サービス評価センターはあとらんど		
所在地	群馬県高崎市八千代町三丁目9番8号		
訪問調査日	令和5年11月8日		

#### 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

コロナ禍であっても寝酒のウィスキーを買いに地域にあるドラッグストアに出かけたり、近くにある自宅まで他の利用者と一緒歩いて行ってみたり、お花見のドライブ等、外出の機会を作り支援していた。自宅にいた時と変わらぬ生活を続けることは、グループホームの理念の一つであり、利用者の尊厳を尊重することといえる。創設当初のグループホームの良い点を今も支援に活かしていることがわかった。また、運営推進会議にも半数以上の家族が出席し、職員の対応や利用者の様子を伝える月1回のお便りについても家族から好意的に評価されており、家族と事業所、職員間の信頼関係が築かれていることがうかがえた。

### V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)		1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	常に理念を心掛けるよう、玄関とトイレに掲示し理解と実践をしている	理念を玄関やトイレに掲示し、職員が常に意識して、理念に沿った介護ができるよう工夫している。新入職員にも掲示場所を示し、理解を深めるよう指導にあたり、実践につなげている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の方の高齢化が著しく自粛明けでも再開出来ていない	運営者を通して、長く地域住民とつきあいをしている。空き家が目立ち、高齢者が多い地域ではあるが、会った時は挨拶等会話をしている。地域のドラッグストアに買い物に行く利用者もいる。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	相談があれば随時対応している		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	自粛が開けて運営推進会議を再開し報告や話し合いをしている	書面開催となっていたが、10月からは対面での開催となった。家族、区長、民生委員、市担当者が出席し、行事報告、入居状況報告、職員会議後の研修会報告等について意見交換をしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	些細な事でも連絡して協力関係を築いている	必要に応じて市担当部署への相談、連絡は管理者が担当し、連携を図っている。ケアマネジャーが介護保険の更新代行と認定調査の立会いをしている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束の研修を行い取り組んでいる	玄関は開錠している。資質向上研修会や委員会でスピーチロックについて話し合い、どうしても拘束にあたらぬ声かけで利用者に対応できるか、職員間で意識しながら支援にあたっている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	防止につとめており、今後委員会を設置する		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	今後研修で行う		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入所時に本人、家族に理解、納得した上で契約、解約、改定をしている		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議や面会時、電話での意見を運営に反映している	毎月1回家族にお便りを出し、利用者の様子を伝えている。利用者に帰宅願望がある場合は家族に連絡をし、支援に協力してもらっている。話ができる利用者からは散歩や買い物等の要望が出ている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員からの意見は出来る限り反映できるよう努力している	職員会議の中ではあらたまってしまっているので、普段から意見や提案を出し合い、入浴の実施人数や居室の在り方の提案を取り上げている。新入職員も気軽に発言できる雰囲気作りを心がけている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	休みの希望を反映し、働きやすい環境に務めている		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部の研修はあまり行けていないが、内部研修行い取り組んでいる		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	現在は行っていないが、今後取り組んで行く		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人の性格や生活習慣を確認して安心して生活出来るよう支援している		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	随時、意見、要望を聴き信頼関係を築いている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	必要としているものがあれば随時対応、支援している		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人が出来る事を見極めて日常生活を支援している		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	毎月の便りや、面会時本人、家族、職員で話をする等、関係を築いている		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	時々車で外出し自宅や行きつけの場所に行っている	近くに自宅があり、家族が毎日面会に来たり、その自宅に他の利用者を伴って訪れている。また、寝酒の習慣を入居後も続け、自分でウイスキーを買いに行ったり、パズルやぬり絵を続けている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	個々の相性を考慮して席等配慮している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	必要に応じ相談や支援している		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	出来る限り本人の希望に添って検討している	利用者の日常会話の内容や言葉、毎月行うモニタリングから、利用者の思いや意向の把握に努めている。また、家族の意向や要望もプランに反映させている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所時に家族や情報提供書で確認している		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ケア記録や健康管理表を基に把握している		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	職員会議でのカンファレンスと本人、家族からの意見を反映し介護計画を作成している	職員会議に出席した職員がカンファレンスでモニタリングをし、ケアマネジャーに伝えている。3ヶ月ごとに介護計画を見直し、利用者の状態に合った計画を作成している。	カンファレンスでモニタリングをしているので記録に残し、3ヶ月ごとのモニタリングを1ヶ月ごとのモニタリングとしてはいかがか。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子気づいた事を記録し職員間で情報を共有し反映している		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	状況に合わせて臨機応変に対応している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	災害時等に対応出来るよう自然資源を把握し安全な暮らしが出来るよう支援している		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	日頃から連携を図り、特変時の受入及び、月1回の往診を行い支援している	入居時に主治医の選択ができることを説明している。現在は全員が協力医の月1回の往診を受けている。定期受診は職員が付添い、歯科は必要に応じて訪問診療を依頼している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師が週に1回入居者の健康状態の確認、薬の管理、往診時の対応を行っている		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	家族と病院と連携を図り早期の退院を目指して行けるようにしている		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	家族や医療機関と話し合い本人にとって十分なケアが行われるよう取り組んでいる	家族の希望に対して主治医が判断し、協力を得られた場合、看取りを実施している。看取りのための介護計画を立て、介護記録を共有し、管理者が手順書を作成し指導にあたっている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	研修でマニュアルがあるので、それに沿って行うよう取り組んでいる		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回以上の火災避難訓練と災害避難訓練を実施している近隣の方にも協力をお願いをしている	消防署の立会いはないが、年2回の避難訓練と自主訓練を研修として実施している。ハザードマップ上の災害はない。備品一覧表があり、2日分の水や食糧品、衛生用品、医薬品を用意している。	自主訓練の回数は増えてるが、火災の他、地震や自然災害を想定した訓練を毎月実施してはいかがか。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	1人ひとりの性格を把握し配慮ある対応を心掛けている	利用者が送ってきた生活スタイルを尊重し、入居後も変わらぬ生活が送れるよう支援している。また利用者間の相性を考慮した席を設け、日常的に誇りやプライバシーが損なわれない工夫をしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自己決定を第一にあくまでもサポートとして支援している		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	個々の生活にあった暮らしをサポートしている		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	季節に応じて衣類を選んで貰ったり、時々化粧をしたり支援している		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	現在はできあいの食事を提供している、後片付け等行っていたが今は出来る人がいなくなってしまった	朝、夕の食事は届いた食事を温めて提供し、昼食は食材を購入し、職員が手作りの食事を提供している。正月や七夕等で伝統食や行事食を用意し、利用者が食事を楽しむ機会を大切にしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個々に食べやすく提供し、出来る限り自力摂取出来るよう取り組んでいる		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔内の確認も兼ねて見守り、介助している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	決まった時間だけで無く個々のパターンを把握しトイレ誘導やオムツ交換を行っている	職員は「トイレで排泄してほしい」という思いで誘導している。4名がトイレ使用で、100歳の利用者が布パンツを着用している。夜間は夜勤者がトイレ誘導し、自立支援に取り組んでいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	薬だけに頼らず自然排便が出来るよう水分補給や運動を行っている		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	週2回の入浴を実施、本人希望や時間帯の変更は現状難しい	週3日、一人が週2回入浴できるよう実施している。「一番風呂がいい」という利用者には希望に沿った対応をし、自立者であっても数日間拒否があり入浴しない利用者の支援に努めている。	入浴日は職員が声かけをしないと、利用者にはわからないので、予定日の他、前日の拒否者、連日になる場合でも声かけをし、選択の機会を設けてはいかがか。
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	大きな声を出す方も居るので居室を変更したり配慮している		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬表をいつでも確認出来るようにしてあり、症状の変化があった場合副作用等を確認している		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	日常の会話の中から本人の嗜好や、やってみたい事を聞き支援している		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気の良い日などは戸外へ散歩やドライブに出掛けていり	日常的にはベランダに出て外気浴をしたり、嗜好品の購入で地域のスーパーに行ったり、近く的高速道路下まで散歩に出かけている。利用者の要望に沿って自宅を訪れる利用者もいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	一部の方は通帳を持ち、出金したり好きな物を買いに掛けている		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	制限無く行っている		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節に応じて壁に花や絵を飾っている	カレンダーや献立、時計が見やすい位置にある。また、編物の作品の色で部屋がわかるよう工夫し、季節感のある飾りや写真が掲示されている。陽射し除けを窓に設置し、気温上昇の対策をしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	トラブルにならないよう席の配慮を行っている		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人の性格や生活習慣を確認して安心して生活出来るよう支援している	備付けのエアコン、ベッド、筆筒の他、テレビ、寝具、化粧品やウイスキーを持ち込み、カレンダー、家族写真を飾っている。居室も共用空間と同様に換気をし、居心地よい空間作りを支援している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレの場所が分かるよう大きく張り紙をしている		